

最終報告

栗島しおかぜ地域共生プログラムの実践研究

-高齢者のお手伝いプログラムを軸とした観光・産品開発・首都圏連携活動の創出-



太正大学 出川研究室

新潟県粟島浦村《AWASIMA》

- ・人口約**370**人
- ・全国で**4番目**に人口が少ない
- ・毎年約2万人が訪れる観光島
- ・環境の劣化や生業の低迷が危惧



調査研究の目的・概要

「あわしま おじいちゃんおばあちゃんとの出会いとお手伝い」
(参考資料参照。以下「お手伝いプログラム」)
を試行実施し、プログラムの課題抽出・修正を行う。
→観光・産品開発・首都圏連携活動の創出へとつながる事業化を模索



試行実践1 おじいちゃんの竹林



伐採→運び出し→加工(クラフト)

切り出した竹で島の皆さんと流しそうめんを楽しむ



試行実践2 おばあちゃんのはたけ

- 50歳で運転免許を取得
- 毎日畑に行く
- 家では膝が痛いですが畑に来ると

治ってしまう体質

- お手伝い要素として、野菜運び・果物の保護カバーつけ・台風被害防止



芽が出るよろこび共に味わう



試行実践3 郷土料理



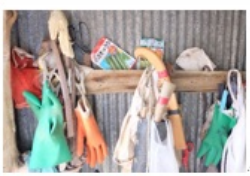


試行実践4 首都圏でのPR活動 ー離島キッチンでのワークショップー



実施可能な「お手伝いプログラム」の構築

- 指導手引・説明教材の取りまとめ
- 継続的な実施運営体制の検討

本保 マツコさん 	道具 服装  耕運機 鍬 鉋 鉄   帽子 ゴム手袋 脚絆 腕の二 長靴 前掛け		
特技 50 歳でとった自動車免許で車を運転し畑には毎日必ず行く。	畑 	道具小屋 	作物  玉ねぎ キュウリ トマト
手伝い要素 - とれた野菜を運ぶ。 - 果物の保護カバーつけ。 - 風で倒れた野菜を立てる。 - みんなで作業すると楽しい。	野菜から果物まで幅広くやっている。	畑のすぐ近くにあり、耕運機や鍬、鉋などよく使う道具を置いてある。余ったトタンとロープを使って棚を作るなど手作り要素が満載。	ごはん 

明らかにになったことと課題

- 高齢者の担う知恵や技術を生かした活動には、周りの学習を促進する魅力がある。
- 一方で、島の子どもたちは島の自然・文化に対する関心が必ずしも高いわけではなく、島の良さや島に根差した知恵・習慣を知らない面がある。
- 今後、構想したプログラムを地域に根差して実質化していくためには、子ども達をはじめとした若手島民が、高齢者が受け継いできた島の自然・文化の魅力と価値を再認識できる具体的な取り組みや環境づくりが必要。

※粟島浦村の政策においても「島民による粟島創生戦略」(H28.3)において「島の子どもが先輩と遊び、学べる機会づくり」を掲げている。

今後の展開についてー島内コミュニティと人材育成を応援するためにー

- ①子どもたちが活用できる島の高齢者の知恵・技術の発掘調査
- ②「島の高齢者と子どもたちをつなぐ学習プログラム」の実践

島に根差した育ちを支援する

- 高齢者と子どもたちをつなぐ島の資源活用の展望 -

おじいちゃんおばあちゃんの
知恵・技術（例）

子どもの学び・遊びへの活用
（例）

畑・食

キャンプ

竹林作業

基地に利用する

★高齢者の知恵と技術を子どもの学び・遊びをつなげて互いを「知る」機会を設定したい。

③島内の若手組織を軸とする新たな多世代協働のしくみ作りの検討・構築

多世代が協働する島の人材育成

